

放送通訳をめぐる諸問題

小倉慶郎 (近畿大学)

三島篤志 (帝塚山学院大学)

I. はじめに

放送通訳 (broadcast interpreting) がこれほど発達した国は日本以外には無いようだ。¹⁾ 現在日本では、NHK-B Sの「おはよう世界のトップニュース」をはじめとして、さまざまな外国語による二ヶ国語放送 (特にニュース) が放映されている。CSでも、CNN International (JCTV) や Fox Newsなどで、二ヶ国語のニュースを見ることができる。まさに、二ヶ国語ニュースの百花繚乱といった感じすらする。日本が世界一の翻訳大国であるのと同様、日本は世界一の放送通訳大国と称しても差し支えないように思われる。しかし、意外と知られていないのが、この放送通訳の中心となる時差通訳という通訳形式である。時差通訳は日本独自とあってよい特殊な通訳形式であるが、²⁾ 時差通訳について記した包括的な書籍は、現在のところ、NHKのB S放送通訳グループが著わした『放送通訳の世界』(アルク新書)があるのみである。

この時差通訳という耳慣れない通訳形式は、実は通訳者・翻訳者・editor・アナウンサーの作業をミックスした、きわめてユニークな通訳形式である。³⁾ 本稿では、放送通訳の中でもNHK-B Sの時差通訳に焦点をあて、その作業を明らかにし、実務サイドから見た時差通訳をめぐる諸問題を明らかにしたい。

II. 放送通訳の形式

一般に、通訳 (interpretation) と呼んでいるものは、逐次通訳 (consecutive interpretation) と同時通訳 (simultaneous interpretation) に分けられるが、放送通訳、特にNHKの放送通訳では、時差通訳、セミ同通、生同通 (同時通訳) を番組により使い分けている。まず、NHK放送通訳の主役とも言える時差通訳について、説明をしたい。

時差通訳の準備作業は、耳を使った翻訳作業にきわめて近い。NHKの時差通訳では、通訳者は、入ってきたニュースをビデオで聞き取りながら、まず手書きによる翻訳・原稿作りを始める。その際、原則として、original を2回以上聞くことができると言うところが一般の通訳とは違うところである。(ただし、1回聞いただけで、ほぼすべてが理解できないと、すぐれた通訳はできないし、時間以内に準備することも難しい。)

original から通訳までの時間を見ると、同時通訳はほぼ瞬時的であり、逐次通訳は original を終えてからすぐに、通訳をはじめなければならないのに対して、時差通訳では original から通訳 (正確には voice over) を始めるまでの時間が相当長い。

次の図は、逐次・同時・時差通訳における original と interpretation の関係をまとめた

ものである。(NHK 放送通訳者水野的氏の作成した図をもとに小倉が改変を加えた。)

・逐次通訳 (consecutive interpretation)

original

interpretation

・同時通訳 (simultaneous interpretation)

original

interpretation

・時差通訳 (prepared interpretation)⁴⁾

original

.....interpretation(voice over)⁵⁾

原稿・メモ作り

オン・エア

時差通訳の原稿・メモ作りの準備作業として、NHK 放送通訳者の養成機関である NHK 情報ネットワーク国際研修室では、研修生に対して、**original** の 7 倍を準備作業の目安とするよう指示している (例えば 6 分の **original** であれば、準備時間は 42 分)。これは、一般通訳から比べると格段に長い準備時間であるが、翻訳するにはあまりに短い時間である。ゆえに、翻訳のように完成原稿を作ることはほとんどできない。原稿は、通訳の際のメモに近いもの、走り書きに近いものと考えて頂けると、実態を理解して頂けると思う。ただし原稿の作り方は、通訳者によって、また準備時間によっても種々さまざまである。⁶⁾

原稿の準備時間は、午前 9 時半に放映される ABC World News Tonight の場合、20 分強の放送を 3 人で分担するが、午前 8 時半にニュースが入ってくる (冬時間の場合) ため、約 1 時間 (冬時間の場合) をかけて準備する。正午放映の CNN Headline News では、午前 11 時半に入ってくる 15 分のニュースをやはり 3 人で分担するが、準備時間は 30 分しかない。NHK では、後者のような準備時間のほとんどない時差通訳をセミ同通と呼んでいる。また、画面では、準備がある場合はすべて「通訳」と表示し、準備のないぶっつけの生同通のみ「同時通訳」と画面に表示することになっている。⁷⁾

さて、原稿の準備が終わったら、**on air** と同時に画面に合わせて、通訳者は原稿 or メモを読む。その際通訳者は画面と通訳を合わせるために音声は聞いているもの (多くの通訳者は、自分の声がよく聞こえるよう音声は絞って聞いているようである)、あくまで原稿を読んでいるのである。であるから、最後の作業はむしろアナウンサーに近いと言えよう。また、視聴者はプロのアナウンサーと通訳者を区別しないため、走り書き程度の原稿しか手元にないにもかかわらず、通訳者はアナウンサー並みの **delivery** を要求されることになる。

III. NHK 放送通訳のルール

前章で、時差通訳が通訳者・翻訳者・アナウンサーの作業を兼ねることがお分かり頂け

たと思うが、この章では時差通訳者の **editor** としての側面（または **editor** 的側面）についても触れたい。以下に NHK の時差通訳の約束事を掲げる。⁸⁾ この中には **editing** の作業に該当するものも含まれている（特に⑬⑭）。①は全体的な訳文の調子に関わるもの、②から⑩は訳語に関するもの、⑪⑫はサウンドバイト (**sound bite**) に関するルールである。⑬⑭はルールというよりも、スピードの速い英語ニュースに日本語の訳をつける放送通訳の特性上、やむなく発生してくる **noise** の処理の仕方と言ってもよいだろう。

なお、これらのルールはすべて守らなくてはならない、というわけではない。守る方が望ましいものから、絶対守らなくてはならないもの、やむを得ないものまでさまざまである。また担当のデスクによっても、遵守すべき事項は異なってくるし、通訳者によってはあまり遵守されていない事項もある。

①である調を使わない。ですます調を使う。

Ex. NATO は首都ベオグラードを攻撃した→NATOは首都ベオグラードを攻撃しました。

このルールは日本語のニュースと同じである。

②定訳を使う。

Ex. コソボのアルバニア人 (**Kosovo Albanians**) →アルバニア系住民
セルビア人 (**the Serb**) →ユーゴ政府

もちろん **the Serb** はセルビア人のことであるが、アメリカの報道では民族を強調するためか、ユーゴ政府やユーゴ軍を表すときもセルビアやセルビア軍といった表記が目立つ。⁹⁾ 地理的には、ユーゴスラビア連邦内にセルビア共和国があるのはご承知のとおりである。

核不拡散条約→核拡散防止条約

どちらも、メディアで使われる訳語であるが、NHKは後者で統一している。

③略語を使うときは、1回目のみ、略語のあとにフルネームを言う。

Ex. NATO→NATO、北大西洋条約機構（2回目からは NATO だけでよい）

北朝鮮→北朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国（2回目から北朝鮮だけでよい）

④人の名前には敬称をつける。ファーストネームは使わない。

Ex. ミロシェビッチ→ミロシェビッチ氏、ミロシェビッチ大統領

サダム→フセイン大統領

⑤同音異義語、紛らわしい呼び名は避ける。

Ex. 他民族（多民族）、妊娠（人参）、慣用（肝要）、約 50 人（150 人）

開始する→始める

漢語よりも大和言葉の方が聞きやすいというのが一般的なルールであろう。

米国→アメリカ、全国

英国→イギリス

欧州→ヨーロッパ（従っていない通訳者も多い）

⑥固有の企業名、商品名は普通名詞に変える。

Ex. コカ・コーラ→コーラ

スコッチ・ウィスキー→ウィスキー

バービー・ドール→?

バービー・ドールなど、通訳者が言い換え不可能なものも、時にはあるようだ。

⑦差別語、不適切な語は避ける。

Ex. のどちんこ、玉の輿→?

アホ、馬鹿、とんま→思慮が足りない、見識を疑う、不注意だ

盲目、めくら→目が不自由

屠殺→食肉処理

足切り→2段階選抜、予備選抜

～を皮切りに→～を始まりに、から始まって

出馬する→立候補する

「出馬する」は他のメディアではよくお目にかかる表現なので意外な気がするが、人間を馬にたとえるのは好ましくない、ということらしい。

⑧曜日は日付に直す。

Ex. today→～日、Monday→～日

⑨温度、風速、速度はそれぞれ華氏を摂氏へ、時速～マイルを秒速～メートルへ、マイルはキロに直す。長さ、重量も同じく日本式（国際式）に換算。

Ex. 100度（華氏）→38度（摂氏）

時速 100 マイル→秒速 44 キロ

時速 55 マイル→時速 88 キロ

放送通訳の現場では、換算はプログラム・ディレクターのお世話になることが多い。

⑩ドルはそのまま。（日本円に換算しない）

⑪サウンドバイトの発言者が誰であることを明確にする。サウンドバイトの前に、字幕に出ている肩書きと名前を言うことが多い。

Ex. コーエン国防長官です。（英語の音声では言っていない。字幕にのみ表示）

⑫サウンドバイトではほんの少し声音を変える。地の文との区別に必要。

⑬訳さないでトバす。（聞きやすいように不必要な情報であれば落とす）

これは、さらに次の4つに分類されるだろう。

a. 放送局の所在地、anchorperson と reporter の名前、挨拶。

特に最初の2つは、日本のニュースでは、「今日は、NHK放送センターから〇〇〇がアンカーをつとめます」などとは言わないから、日本のニュースの慣用に従っているとも考えられる。

- b. 画面から訳さなくてもわかるもの。
- c. 繰り返し (redundancy) になる場合。
- d. 旧情報であるなど、情報として価値の低いもの。

⑭長い文あるいは、2文以上を、内容をまとめてコンパクトに訳出する。

IV. 時差通訳の実例の検討

以下に、1999年4月8日(現地時間7日)にNHK-BSで放送された、“ABC World News Tonight”のoriginal(英語)および日本語訳のtranscriptを掲げ、Ⅲに挙げたルールの適用の状況を検討することにする。傍線のあとにつけられた番号は、その傍線部分がⅢで示した番号のルールと合致していることを示す。なお、⑬の省略に関しては重要なもののみを指摘した。(表記される英語と日本語の位置関係は、originalと日本語訳のおおざっぱな時間の関係を示していると考えてもらいたい。)

From ABC News World headquarters in New York. This is World News Tonight with

Peter Jennings.⑬-a

P. Jennings: Good evening.⑬-a There are so many questions to be asked and

NATO、北大西洋条約機構によるユーゴ空爆に関して
answered⑭ every day about the NATO③ campaign against Yugoslavia. NATO hit he
て、不明な点は数多くあります。 NATOは7日

the capital city Belgrade tonight.⑧ There is still no indication that it is having an

夜も首都ベオグラードを攻撃しましたが、空爆がユーゴのミロシェビッチ大統領に対して
intended effect on the Serbian leader Mr. Milosevic. That's a meeting he had with the
期待通りの効果を挙げているのか、定かではありません。ミロシェビッチ大統領は7日ロ

Russian delegation today. It was strongly suggested (there?) that Mr. Milosevic will

シアの代表団と会談しました。また、ミロシェビッチ大統領は、捕虜となっている3人の

release 3 American prisoners of war. The acting president of Cyprus may have struck

アメリカ兵をキプロスに引き渡そうとしているようです。この件については、明日さらに

a deal for their freedom⑭ and we will know more tomorrow. Down in Kosovo province

詳しいことが分かりそうです。 一方コソボ自治州では、ユーゴ

today, Serbs② closed the border crossings to both Albania and Macedonia. And now

政府がアルバニアやマケドニアとの国境を封鎖しました。 ユー

there are some suggestions they are forcing ethnic Albanians still in Kosovo to stay

ゴ政府がアルバニア系住民をコソボにとどませようとしているとの様子が見られます。

there. But our first field report is from inside Macedonia. The big question there is: では、最初のレポートをお伝えします。マケドニアに避難した2万人のアルバニア系難民が、マケドニア政府によって強制的に移動させられた後、所在がわからなくなっている **What happened to 20,000 refugees who have been moved by Macedonians, perhaps against their will. This was the refugee camp yesterday, ⑧ jammed with people. This is the refugee camp today. Here is ABC's Mike Lee. ⑬-a**

しかし一夜明けたらこんな様子です。ではレポートをご覧ください。

M. Lee: It began in the middle of the night, ⑧ a well-coordinated operation. ⑬-b¹⁰
移動は6日深夜に行われました。

Macedonian police brought nearly 200 buses to the border and herded people out of the
マケドニア警察が、バス200台を用意し難民を詰め込みました。

valley. The refugees were not told where they were going. Some families were
どこへ行くのかも告げられず、離れ離れになった家族もいます。

separated. By dawn this morning, this place relief officials called the pit ⑬-d was all
夜が明けると難民キャンプは空っぽになっていました。

but deserted. Refugees had obviously been forced to leave in a hurry. Personal
移動は突然のことだったようです。 家族の写真な

belongings including family photos had been abandoned. Angry relief workers said
ど身の回り品も残されたままでした。 救援スタッフは事前通告がな

they have been given no warning.

かったと憤慨しています。

Woman: It's the dispersal of refugee families ⑬-c and it goes against our two
移動には、本人の同意を得ることと家族を引き裂かないという2大原則がある
principles of voluntariness and keeping families intact.

のに、それが守られませんでした。

M. Lee: Of the estimated 60,000 refugees who have been held at the no man's land, ⑬-d
足止めされた6万人の難民のうち、2万5千人は、マケドニアにあるNATOのセ
the United Nations says ⑬-d only about 25,000 were taken to NATO transit centers in
ンターに収容され、1万4千人はアルバニアに送られました。

Macedonia. Some 14,000 others are believed to have been sent to Albania, leaving
しかし、

those 21,000 others unaccounted for. Macedonian officials today claimed that no one
2万1千人の所在が不明となっています。マケドニア政府は強制的な移動ではないと反論
had been bussed ⑬-b out against their will. But these refugees who were expelled to
しています。 しかし、6日夜、マケドニアからアルバニアに追放

Albania last night ⑧ and are now crammed into a room with no furniture ⑬-b¹¹ told
されたこの難民たちは、ひどい扱いを受けバスに強制的に詰め込まれたと言います。

ABC news that they have been mishandled and forced onto the buses.

Woman: This very bad. They treated like animals. They beat us.

ひどかったです。動物のような扱いを受けました。殴られました。

Man: They treated us worse than Serbs.

セルビアよりもひどい扱いを受けました。

M. Lee: Relief workers have another worry. Only yesterday, tens of thousands of

救援団体が心配しているもうひとつのことは、マケドニアやアルバニアに脱
people were lined up in Kosovo, waiting to cross into Macedonia and Albania. Then the
出しようと、コンゴ領内で列を作っていた数万人の人々のことです。

Serb ② shut both borders. And today no one here can say what has happened to all
ユーゴ政府が国境を封鎖してしまったので、彼らの身に何が起きたのかはわかりません。

those refugees. Serb ② television broadcast these pictures today ⑧ claiming that these
ユーゴの国営テレビは7日、アルバニア系住民が国境から引き返してい
are Kosovo Albanians ② turning back from the border. A Serb ② official claims that
るという映像を流しました。 ユーゴ政府が停戦を宣言し、ア

the declared cease-fire has made it safe for them to go back home. But this ethnic
ルバニア系住民が安全に帰還していると報じています。 しかし、

Albanian who slipped through the Serb lines tells a different story.

ひそかに国境を越えたこのアルバニア系住民によると、

“They were not asking us”, he said. “They were ordering everyone at gunpoint to go
ユーゴ政府が住民に銃を突き付け、帰還を強制しているということ。

back home.” ⑭ Tonight there is no way of knowing how many hundreds or thousands

今回、マケドニア政府が行った難民の移動によってどれだけの家族が
of families have been separated by this latest mass movement of refugees. Mike Lee,
離散してしまったのかは全く分かりません。

ABC News, near the Macedonian border with Kosovo. ⑬-a

V. 終わりに

本稿では、NHK-BSの放送通訳の中心ともいえる時差通訳の形式について、また時差通訳の際に現場の放送通訳者が従うべき（または、従うよう期待されている）様々な制約について具体的用例を挙げながら検討してきた。定時のニュースの時差通訳は日本特有の通訳形式である可能性が高く、またこの形式がNHKの放送の現場で定着してからわずか10年ほどの歴史しかない。そのため、水野（1992、1993）や貝瀬（1993）のパイオニア的研究、さらに最近では木佐（1997）、鶴田（1997）による包括的研究もあるが、その具体的なメカニズムについての実証的研究はまだ少ない。

今後、時差通訳の実証研究に取り組む上でいろいろなアプローチが考えられるが、¹²⁾ まずは、現場の放送通訳者の実例を詳細に分析することが先決であろう。特に、今回の実例の検討ではあまり詳しく触れることができなかった editing 作業での約束事^⑬・^⑭は、さらに具体的用例を詳しく調べることで、いくつかのストラテジーに収斂できる可能性があ

る。例えば、⑬で指摘した情報の省略 (deletion)、⑭で示した情報の統合 (integration) に加え、情報の簡素化 (simplification: 相対的に情報価値が低いと判断された箇所を意図的に曖昧化する)、情報の再構成 (reorganization: オリジナルニュースでは後半部で出てくる情報を前に持ってくる)、パフォーマンス最中の情報整理 (monitoring) などがストラテジーとして考えられるだろう。さらに、このような各種ストラテジーを特定化した上で、ストラテジーの使用、不使用が通訳者のパフォーマンスにどの程度影響を及ぼすかについても検討する必要がある。また、視点を変えれば、放送通訳者が犯す誤りのパターンの研究も時差通訳という作業の性質を明らかにしていく上で貴重な情報を提供してくれるかもしれない。

NHK-B Sの時差通訳が始まってから10年余り。その研究については、まだ産声をあげたばかりである。この他にもまだまだ検討する課題が残されていることは言うまでもないが、本章で指摘した課題、その他の課題については、また別の論考で詳細に検討したい。

[注]

本稿は、1999年4月24日の日本英語コミュニケーション学会関西支部研究フォーラムで発表した内容をもとに、加筆・再構成したものである。なお、執筆にあたっては、NHK放送通訳者水野的氏のご協力を頂いた。付して謝意を表したい。

1) 水野的氏から、他国での放送通訳の発達状況について、次のコメントを頂いた。

...私の知る限りでは、ヨーロッパのテレビ (そしてラジオの一部) では60年代末から、大きなイベント (アメリカ大統領選挙、米ソの宇宙開発) に同時通訳が使われており、90-91年の湾岸危機、湾岸戦争時に飛躍的に増えたという証言があります。ただしこれはドイツ、オーストリア、フィンランドの場合で、他の国については確かなことは言えません。しかしおそらく似たようなものでしょう。東欧のブルガリアでもインタビューを同時通訳で伝えているようです。アメリカの場合はスペイン語使用者向けの番組やチャンネル (たとえばCNN Espanolなど) がありますから、あまり発達しているとは言えないでしょう。クリントンと外国要人との合同記者会見などで通訳者の声を聞くぐらいです。...ヨーロッパの場合、放送通訳とはほとんど同時通訳のことを意味します。(一部に逐次通訳が使われるそうです。)

なお、台湾でも前回の大統領選挙のディベートを同時通訳で放送しました。

- 2) 海外では、BBC World Service が日本向けにやっているものくらいしかない。
- 3) 水野的氏は、1997年2月15日、日本時事英語学会関西支部研究例会で「放送通訳の実際と理論的課題」と題した発表を行った。その中で水野氏は、「放送通訳者には、翻訳者・通訳者・editorの能力が必要である」との発言をしている。
- 4) 時差通訳の定訳は今のところない。この訳は、小倉・三島が暫定的に考案したものである。
- 5) オン・エアの時点ではすでに翻訳を終えているので、正確には interpretation という

よりも **voice over** と呼ぶべきであろう。本稿に載せた図は逐次通訳・同時通訳との比較をわかりやすくするために、あえて **interpretation (voice over)** とした。

- 6) NHK放送通訳者小沼順子氏は、『通訳翻訳ジャーナル』1998年12月号で次のように述べている。

...同じ時差通訳でも、CNNやABCのようなストレートニュースと...「ジム・レーラー」のようなニュースアワーの通訳ではまた若干異なってくる。

「ストレートニュースの通訳原稿はどちらかと言うと書く文字が多くなり、オンエアのとき原文の音声聞きながら原稿を耳で追いつつ日本語に再生していくのですが、『ジム・レーラー』では対談が中心になりますから会議の通訳に近い。それで、オンエアでは会議調のメモを思い出すための助けとして見ながら耳で聞いて訳していきます」

- 7) 同じ二ヶ国語放送でも、CNN International (JCTV) では、現在では、定時の World News はすべて同時通訳(生同通)で処理している。ただし同局の人気番組である Larry King Live は時差通訳(ただし収録は on air 以前)を採用している。Larry King Live の場合、約1時間の番組の前半30分と後半30分をそれぞれ2人の通訳者(計4人)が担当し、準備時間は読み合わせを含めて3時間である。ただし、原稿はNHKと違って完全原稿であり、通訳者は原則として訳文をワープロ入力することになっている。
- 8) 『放送通訳の世界』p.66~76を参考に小倉が手を加えたもの。
- 9) このほか、ユーゴスラビア連邦の中枢をなすのが、セルビア共和国であるから、セルビアをユーゴの代わりに使っているのだ、という意見もある(水野的氏)。
- 10) 画面では、アルバニア系住民がマケドニア警察によって、整然とバスに乗車させられる様子が映っている。
- 11) 画面では、何人ものアルバニア系住民が、家具の無い部屋に押し込まれている様子が映し出されている。
- 12) 時差通訳研究には、大きく二通りのアプローチが考えられるだろう。一つは本稿のような実例をベースにした質的研究(qualitative research)であり、もう一つは量的研究(quantitative research)である。量的研究とは、時差通訳というプロセスに関わる様々な要素(例えば準備時間、オリジナル英語ニュースの複雑さ)を取り出し、その要素(変数)をコントロールすることにより、何が通訳者のパフォーマンスの良し悪しを規定するのかを実験的に検証するアプローチである。これら二つのアプローチは相互補完的な関係にあり、最終的には両者をうまく組み合わせることで時差通訳プロセスの全貌が少しずつ解明されていくと思われる。

[参考および引用文献]

B S放送通訳グループ (1998) 『放送通訳の世界』アルク

貝瀬千章 (1993) 「放送英語ニュース通訳上の諸問題」『明海大学外国語学部論集』
第6集 p.p.31-42

小沼順子 (1998) 「NHK衛星放送通訳24時」(1998)『通訳翻訳ジャーナル』12月号 p.17

- 木佐敬久(1997)『「放送通訳の日本語」受け手調査と話す速度についての研究』
文部省科学研究費助成研究「国際社会における日本語についての総合的研究」より
- 水野的(1992)「放送通訳の理論的課題(1)」『通訳理論研究』第2号第2巻第1号 p.p.33-42
- 水野的(1993)「放送通訳の課題Ⅱ」『通訳理論研究』第4号第3巻第1号 p.p.31-37
- NHK 放送文化研究所(1992)『NHK ことばのハンドブック』日本放送出版協会
- 小倉慶郎(1997)「英日同時通訳の問題点—技術的側面から」*The JASEC Bulletin*
第6巻1号 p.p.9-19
- 篠田颯子・新崎隆子(1992)『英語は女を変える』はまの出版
- 鶴田知佳子(1997)「英語テレビニュースの放送通訳：あるABCニュースに関する一考察」『目白学園女子短期大学研究紀要』第34号 pp.115-133